

水戸黄門まつり



(表紙写真提供：水戸市)

「水戸黄門まつり」は、水戸藩2代藩主徳川光圀公を称える祭として知られ、今年で第56回目を迎えます。祭は、水戸市中心部の商店街や千波湖などが会場となり、毎年8月の第1金・土・日曜日に3日間連続で開催され、延べ約100万人の観客を動員する水戸市の人気イベントの1つとなっています。

祭の歴史は1935年頃まで遡ります。当時、商店街では黄門まつりの前身である「七夕まつりと広告祭」が開催されていました。1961年に映画「水戸黄門」の出演者が役柄の衣装で水戸市役所を訪問したことがきっかけで「水戸黄門まつり」というアイデアが生まれ、同年8月に「第1回水戸の七夕黄門まつり」が開催されました。その後、1992年に名称が「水戸黄門まつり」に変わり、現在に至ります。

初日の夜は、千波湖畔において黄門まつりの前夜祭ともいえる花火大会が行われます。花火は、全国大会優勝作品の尺玉に始まり、8号玉50連発、創作花火、ミュージックスターメインなど約4,500発が用意され、約1時間集中的に打ち上げられます。会場からは、水戸の夜空を飾る花火、湖面に写り込む逆さ花火など様々な花火の姿を楽しむことができます。

土曜と日曜は、市内各所で山車巡行や神輿連合渡御、市民カーニバル、水戸黄門パレードなどイベントが盛りだくさんです。

今年の開催は8月5～7日です。水戸市が祭一色になるこの期間、ご家族・ご友人とともに、熱気溢れる水戸のまちに足を運んでみてはいかがでしょうか。



◆場 所：茨城県水戸市中心部・千波湖

アクセス：

【電車】 JR常磐線「水戸駅」から徒歩5分(中心部)
JR常磐線「水戸駅」から徒歩15分(千波湖)

【車】 常磐自動車道「水戸IC」より20分